2025 年 8 月 26 日

GX 実行会議

GX 推進機構
COO 専務理事
重竹 尚基

GX をめぐる情勢と今後の取組について

米国における IRA 見直しなどが、世の中的に「GX への逆風」と捉えられ「やらない理由」を勢いづけている側面がある。しかしグローバルな動きをよく見ると、世界の潮流は「脱・脱炭素」ではなく、もともと日本が主張しているリアリティのあるトランジションを標榜する日本の GX 戦略に近づいてきている。欧州・米国・中国などは自国の産業競争力強化や安全保障にグリーン化の政策や取組を活用する動きを着実に進めていることが良くわかる。また、米国などにおける一部領域での揺り戻しは日本にとっては寧ろチャンスである。グローバルな動きは一見「GX への逆風・危機」にも見えるが、その底流に流れる各国の取組状況をよくみると、日本の GX の取組を緩めてはならないという警鐘である。そういったグローバルの動きを踏まえて、このタイミングでいま日本は GX のどこにフォーカスすべきかを見極め、更に加速化していかなければならない。クリーンエネルギーベースで競争力のある産業構造への転換を促すという、GX におけるコア中のコア戦略のひとつである GX 産業立地は、将にいま官民挙げて加速化すべき取組である。

1. 地域を切り口にした新たな産業集積の絵柄の必要性

地域を切り口に適度なメッシュの産業集積コンセプト作りの支援が求められている。国レベルの大きな政策・ビジョンや GX 産業立地の類型は示された。一方で地域の取組は自治体・地方銀行などを中心に地元の中堅企業の省エネ・見える化などの取組が主体となっている。もちろんそれも重要な第一歩だが、その二つを繋ぐ適度なメッシュの具体性を持った新たな産業集積の絵柄を創り切れず、中々その先に向けて動き出せていないところが多いのではないか。例えば、洋上風力や原子力などのクリーンエネルギーが豊富な地域において、省エネ・見える化を超える大きな投資に向かって動き出すた

めには、地域 X 分野でGX産業立地の類型を解きほぐしてやることが重要である。その際、地域をもう少し広域でとらえて、クリーンエネルギー立地でないところでの産業集積とクリーンエネルギー立地の関係性を整理することによりGX産業立地による地方創生のオプションの幅が更に広がる。

2. 分野別投資戦略のアップデート

2023年に策定した分野別投資戦略はロードマップまで含めてGXで成長領域を追求する指針となっている。状況は刻々と変化しているので、最新の状況を踏まえてこれをアップデートし、日本が競争力のある新たなGX産業候補としてフォーカスすべき領域を改めて示す必要がある。特に地域・需要サイドの動向もふくめて分野別投資戦略をアップデートすることにより、GX戦略地域の検討・議論における指針となる。

3. 取組スピードを上げるための思い切った政策・支援

世界的な潮流を踏まえて日本がGXで勝ち筋を創るためには、今やるべきことを見極めて、そのスピードを上げてやることが大事である。やらないこと・様子見・中途半端な取組によるデメリットは歴史が証明している。やることを更に加速化するためには、政策の工夫と強度が重要。例えば、業界再編による設備廃棄などの後ろ向き費用も前向き投資とセットでGX投資として支援する、跡地やアセットを国で一旦引き受けてそこに民間資金・GX投資を呼び込んでいくなど、思い切った政策支援を、今回のGX戦略地域での取組加速化に向けたはずみ車として検討する必要がある。

4. ROIを担保する

GX特有のリスクをとって取り組みを進める事業主体には、しかるべきROIを担保することが重要である。日本最適とは必ずしも一致しない企業最適の判断軸を持ち、かつ資本市場のプレッシャーにさらされている民間企業・民間資金をGX投資に呼び込み、GX特有のリスクがある取組を加速化するには、政策・金融支援を通じて少なくともミドルリスク・ミドルリターンを担保することが求められている。そのことが健全な国内投資を呼び込み、GXを通じた国民生活の向上に資する好循環を生むことに繋がる。

5. GX戦略地域の選定に戦略意思を込める

今回提示されたGX戦略地域選定の要件は、いずれも重要な視点として賛同する。ただ、これを点数化してメカニカルに選考に活用すると、平均点は高いが数値化により判断理由が曖昧になってしまい、そもそもなぜこの地域を選ぶのかという理由がわかりにくくなる懸念がある。結果、どこもよく似たような内容になってしまうリスクがある。もちろん点数は点数として判断材料になるが、「なぜそこを選ぶのか」という戦略的理由が際立つものや尖ったものを失わないように、日本最適を目指す政府の意思を込めてメリハリをつけたGX戦略地域選定の最終判断が出来るような選考プロセスの工夫が必要である。釈迦に説法だが戦略とはメリハリをつけることである。公平性を担保するという理由で横並びやバラマキに陥るのではなく、メリハリをつけてその理由の説明責任が透明性をもって果たせるようにしておく方が、より戦略的な判断を可能にする。

以上